

<p>19日 (日)</p> <p>マタイ 19章</p>	<p>「子供たちを来させなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の国はこのような者たちのものである」(14節)。弱く、保護を必要とする子供たち。強く、競争に勝ち抜き、大物であることを求める大人たち。イエスは子どもの内にこそ、天の国を見る。弱く、小さき者にこそ主の祝福と平安がある。</p>
<p>20日 (月)</p> <p>マタイ 20章</p>	<p>「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい」(26節)。人を仕えさせ、いちばん上の人物になる。そのためにはなりふりかまわない。保身、うそ、無責任がまかり通る今の世、主イエスは、仕えること、皆の僕になることで、人の上に立つ真実の人の姿を教える。</p>
<p>21日 (火)</p> <p>マタイ 21章</p>	<p>「信じて祈るならば、求めるものは何でも得られる」(22節) 主イエスは、また、「山に向かって、立ち上がって、海に飛び込めと言っても、その通りになる」と言われている。固い信仰は山をも海に飛び込ませ、求めるものはなんでも得られる。しかし、自分の信仰の薄さ。日々み言葉に親しみ、信仰を深めて行くことができますように。</p>
<p>22日 (水)</p> <p>マタイ 22章</p>	<p>「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい」(21節)。主イエスを陥れようとしたファリサイ派の人々は、この答えに驚く。ローマに税金を納めないで、あらがうのではなく、決められた税を納めることを勧め、神からあふれるほどの愛をいただいている民である私たちは、それ以上の愛で神を愛し返そう。</p>

<p>23日 (木)</p> <p>マタイ 23章</p>	<p>「あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ」(8 節)。先生と呼ばれるに値するのは主イエス・キリストお一人。他はすべて兄弟姉妹である。日々、主イエスを師と仰ぎ、従順に従い、他の人たちを兄弟姉妹として、互いに愛し合い、助け合うことができますように。</p>
<p>24日 (金)</p> <p>マタイ 24章</p>	<p>「その日、その時は、誰も知らない。天使たちも、子も知らない。ただ父だけがご存知である」(36 節)。終末の来る日は誰も知らない。主イエスはその日が来るまで、目を覚ましていなさいと言われる。眠ることなく、目を覚まし、その日が来るまで、み言葉をいただき、従順に主イエスに従うことができますように。</p>
<p>25日 (土)</p> <p>マタイ 25章</p>	<p>「はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである」(40 節) 飢えている人、のどが渇いている人、宿のない人、着るものがない人、病気の人、牢につながれている人、主イエスは、これらすべての小さい者たちを受け入れ、共にいてくださる。</p>
<p>26日 (日)</p> <p>マタイ 26章</p>	<p>『父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。』(39 節)。私たちはいつも、何を祈るのが問われる。苦難を避ける事、願いを叶えることだけが祈りの目的ではない。何よりもまず神の御心が実現することを祈り求めたい。</p>